

アルミ床版歩道拡幅
ユニット化で採用増

住軽日軽エンジニアリングが開発したアルミ床版歩道拡幅工法が近年、採用増が際だっている。

網干大橋橋側歩道橋、菟原大橋、鳥取大橋で採用され、既設車道橋にアルミ床版を添架し歩道幅員を確保、交通安全対策の歩行者の安全・安心に貢献した。

アルミ床版歩道拡幅工法の特徴は主部材がアルミ合金製(6000系)の大型形材をFSW(摩擦攪拌接合)でユニット化してアルミ床版の軽量化・高耐久性を実現した。また小型重機の架設が可能で道路占有面積を抑え、既設橋梁からの施工により工期短縮できる。



鳥取大橋

住軽日軽エンジニア

アルミ床版は、高耐食性のため海浜地区など厳しい条件下でも塗装の必要もなく優れた機能と美観を有し維持管理の省力

化、LCCの低減などが評価されて採用された。同工法は、平成15年度

国土交通省姫路河川国道事務所の新加古川副道に(橋長420㍎)日本で初のアルミ床版が橋梁に採用されて以来、国土交

通省湯沢河川国道事務所玉川橋(橋長650㍎)などに設置され、23年度

までに約50件の実績がある。24年度も拡販に向けて、道路保全に係る市場の掘り起しに鋭意営業展開中だ。(永島誠司)